

2018年12月期第1四半期の決算説明会 質疑応答の要約

2018年5月10日(木)に開催した、決算説明会において、出席者の皆さまから頂いた質問をまとめたものです。GMO インターネット代表取締役会長兼社長・グループ代表の熊谷、同 CFO 安田より回答させていただきました。

●仮想通貨マイニング事業について

【Q1】 次世代チップの「V1」はチップの製造は完成したのか。「V1」「V2」のスペックの違いを教えてください。

【A1】 「V1」は昨年12月にテープアウト（設計完了）し、マシン製造を行っています。「V2」は5月末にテープアウト予定で、こちらのほうが性能は高いです。「12nmFFC」、「V1」の製造を経てさまざまな改善をしています。スペックは現段階では非公開です。

【Q2】 マイニングマシンの外販について「V2」が出てくる時点で外販を開始するようだが、クラウドマイニングとカニバリはないのか。

【A2】 「V1」「V2」共に外販を実施します。「V1」は最小ロット、「V2」はニーズをみながら販売していきます。

クラウドマイニングとのカニバリについては、結論ありません。外販でマシンを購入される方は、世界中のマイナーの方たちなどで、古くなったマシンの入れ替え需要などがあると考えている。またこれを行うには技術力が必要なので、技術や場所がない方がクラウドマイニングを利用されるので、すみ分けはできています。

【Q3】 「V1」「V2」のチップの性能が差異があるなら、条件面をどのようにオファーするのか。

【A3】 マイニングマシンの価格は、需要と供給で変動します。他社さんのマシンも毎月、価格が変動しています。当社では提供するハッシュ値を固定して価格は毎月変更する予定です。

【Q4】 仮想通貨マイニング事業のスケジュール（P49）について、量産ラインの奪い合いになることのことだが、リスクとして感じていることがあれば教えてください。

【A4】 2点あると考えております。

1_クラウドマイニングは、サービスを開始してもお申込みいただく方がいらっしゃらない場合がリスクです。

2_自社開発のマシンについては、チップが無事に量産できたとしても、サーバーの製造過程において組立ができない、具体的には組立に必要な電源部材やパーツなどが調達できず、稼働開始まで時間を要することがリスクです。

【Q5】 P37 のマーケットの総ハッシュレートの状況と、P47 の御社のハッシュレートを比較すると御社の方が急角度になっている。シェアが大切ということだが、規模の優位性をどのように考えてるか。

【A5】 規模が大きい会社が有利かという点については Yes です。但し、マシンを調達する資金力があっても、ビットコインなどの価格が高騰する環境下においては、実際にマシンが調達できないなどの状況があります。また、マシンを調達できたとしても、必要な電源確保、エンジニアさんがきちんと運営できるのかなどのあらゆる環境が全て叶って、初めて勝てるのです。当社はその多くの条件を満たしていると考えています。

【Q6】 クラウドマイニングについて、6月提供開始とのことだが、これはV1を使って提供するというのか？また、V2稼働開始後はクラウドマイニングに供するののか。

【A6】 他のクラウドマイニング事業者は、使用するマイニングマシンについては開示していません。なぜなら、クラウドマイニングのお客さまにとって重要なのは、ハッシュパワーと価格に集約されるからです。ですので、我々も非開示の予定でいます。

【Q7】 ハッシュ値の見通しについて、V1が最小ロットであることを考えると9月までの上昇角度が限られるということでしょうか。

【A7】 目標が3,000PH/sというところは不変ですが、マシンの開発・製造の状況、電力・拠点の調達状況によって、多少前後する可能性はあります。

●金融事業について

【Q8】 金融事業に、仮想通貨交換事業分は含まれているのか。またビッグデータの解析による増益分はどのくらいなのか。

【A8】 セグメント変更があり、従来の金融事業セグメントに含まれていた GMO コインの仮想通貨交換事業は仮想通貨事業セグメントのサブセグメントとして遡及修正し、開示しております。そのため、金融事業はFX・証券からなっており、結果として高い増益を果たしております。ビッグデータの解析による成果分を切り出してご案内することは大変難しいですが、P29のFX取引高をご覧いただくと、マーケットが比較的落ち着いている状況のなかで、P28の売上、利益が高い成長をしている差分がビッグデータ解析によるチューニングの成果だとお考えいただきたい。

以上